

平成25年度 第16回役員会議事要旨

日 時 平成25年9月24日(火) 13時30分開会
15時03分閉会

場 所 特別会議室

出席者 本間学長、城後理事、蛇穴理事、眞田理事、石川理事
大津副学長、佐藤副学長、瀬山監事、相馬監事、財務部長、学務部長、
部長(カリキュラム改革担当)

欠席者 芝木副学長、総務部長

1 議題

(1) 大学教員採用枠(平成26年4月1日付け採用分)の策定について

学長から、資料3に基づき、平成26年4月1日付けで割愛の依頼があった旭川校の後任人事について、後任人事採用枠1を認めること、また、釧路校において、改めて策定された将来の教員配置計画に基づき、釧路校に採用枠1を認めることについて説明があり、これを承認した。

(2) 東日本大震災に伴う被災者に係る入学志願者の入学検定料の返還、入学料免除及び授業料免除の実施について

城後理事から、資料4に基づき、昨年度に引き続き、東日本大震災に伴う被災者に係る入学志願者の入学検定料の返還と入学料免除及び授業料免除を実施することについて説明があり、これを承認した。

なお、次年度以降も、国や大学入試センターが被災者の支援を継続する場合、本学においても、それに併せて支援を継続していくことについて、確認した。

(3) 北海道教育大学国際交流・協力センター短期日本語・日本文化研修プログラム規則について

佐藤副学長から、資料5に基づき、国際交流・協力センター短期日本語・日本文化研修プログラム規則について説明があり、これを承認した。

(4) 米国・イリノイ州立大学との協定・覚書更新について

佐藤副学長から、資料6に基づき、米国・イリノイ州立大学との協定・覚書更新について説明があり、これを承認した。

(5) カナダ・ハリファックスのセント・メリーズ大学との覚書更新について

佐藤副学長から、資料7に基づき、カナダ・ハリファックスのセント・メリーズ大学との覚書更新について説明があり、これを承認した。

2 協議事項

(1) 北海道教育大学教育課程編成基準(案)について

城後理事から、資料8に基づき、新学科の設置に伴う本学教育課程編成基準の改正について説明があり、これを了承し、教育研究評議会に諮ることとした。

(2) 北海道教育大学教養教育全学運営委員会規則の制定について

城後理事から、資料9に基づき、本学学部の教養教育の改善・充実を図るため、教養教育全学運営委員会を組織すること及びそれに伴う規則の制定について説明があり、協議の結果、組織の規模及び構成等について改めて検討した上で、教育研究評議会に諮ることとした。

3 報告事項

(1) ミッションの再定義を踏まえた中期目標・計画の変更について

石川理事から、資料10に基づき、ミッションの再定義を踏まえ中期目標・計画を変更するための文部科学省との協議による北海道教育大学教育学部の改革（案）及びミッションの再定義を踏まえた教員養成改革について、報告があった。

(2) 平成26年度年間行事予定について

教務課長から、資料11に基づき、教育研究委員会において審議・了承された学部、大学院（教職大学院を除く。）における入学式、各学期の授業開始日及び終了日、新入生オリエンテーション等の大学の公式行事の日程について、報告があった。

(3) 学生の懲戒処分について

城後理事から、岩見沢校学生の懲戒処分について、報告があった。

(4) 釧路校における食中毒事故について

学生課長から、釧路校の授業の一環として行われたキャンプでの食事が原因と思われる食中毒事故が発生したことについて、報告があった。

なお、大学の危機管理についての注意を喚起するため、教育研究評議会で報告すべきとの意見があった。

(5) 米国・アラスカ大学フェアバンクス校との協定・覚書更新について

佐藤副学長から、資料12に基づき、米国・アラスカ大学フェアバンクス校との協定・覚書更新が終了したことについて、報告があった。

(6) ロシア連邦ヴィトウス・ベーリング記念カムチャッカ国立大学との協定更新について

佐藤副学長から、資料13に基づき、ロシア連邦ヴィトウス・ベーリング記念カムチャッカ国立大学との協定更新が終了したことについて、報告があった。

(7) サモア国 JICA草の根技術協力事業の内定について

佐藤副学長から、資料14に基づき、本学が応募した本技術協力事業がJICAの内定を受けたことについて、報告があった

4 各種会議の議題等について

学長から、第8回運営会議開催要項及び第11回教育研究評議会開催要項について、説明があった。

(監事からの意見)

- 瀬山監事から、ミッションの再定義を踏まえた教員養成改革に、大学のガバナンス改革として、学長のリーダーシップを発揮できる体制を構築することが明記されているが、これを実現するための具体的な方策を検討していく必要があるのではないか、との意見があった。
- 瀬山監事から、道内の国立大学との教養教育の単位互換を推進することで、幅広い教養教育科目を履修する機会を用意し、学生の学ぶ意欲に伝えていくことが重要であるとの意見があった。

以 上